

“鮮度一番！” No.206

～女性と男性が支え合う社会をつくる～

CONTENTS

- 1 / 柳田国男『地名の研究』を読む 第3便
- 2 / ひとことコラム
- 2~3 / ワイワイ女性ひろば
- 3 / 第21回三条女性会議総会のご報告
- 4~5 / 代表あいさつ
- 6 / 来賓あいさつ 編集後記

柳田国男『地名の研究』を読む

「ク キ」

第3便

『地名の研究』の「地名考説」で取り上げられた地名を紹介していきたいと思います。最初はクキです。クキ地名は久木、久喜、釘などと表記されて全国に見られ、もとは薪などの燃料に関わる地名だと柳田国男は指摘します。近年、里山が注目されています。人々が里山で、燃料となる雑木をひろい集めていた頃の名残を伝える地名と言えるかもしれません。

柳田は、地名を考える上で、漢字を手がかりにしないでことばの響きから考えることが大切だと説いています。クキでも漢字から考えても地名の語源にたどり着かない事例を紹介しています。柎をヒイラギではなく、クキと読む事例があります。クキを漢字にした久木がありますが、この二文字を合せた杣でクキとしたかったのに、杣の文字は杉・スギの異体字（標準字体以外の文字）なので、スギと混同されないために久を冬に変えて柎としたようです。(杉野真司・H28.6.7)

・・・ひとことコラム・・・

「日本の常識は世界の非常識????」

川瀬弓子

ずいぶん前だが三条ひとひとフォーラムの講演会に字幕スーパーの翻訳家戸田奈津子さんがお見えになった。その時講演の中で「日本の常識は世界の非常識」と言われた。

日本（の風土、文化）大好きかつ洋画大好き人間の私としては敬愛する戸田さんがおっしゃることではあるがちょっと寂しく感じ心に残っていた。

最近あの教科書に登場するほど著名な日本文学研究者ドナルドキーンさん著「二つの母国に生きて」を読んでいたらATMで現金がおろせなくなったトラブルについて、ニューヨーク版と東京版を比較紹介されていた。どちらもキーンさん自身が体験したことであった。

ニューヨークでは、銀行員にトラブルを訴えたところ「私の仕事にあれこれ口出しをしないでくれ」と言われ直してもらえなかったそうだ。

一方東京では、責任者がすぐやってきて一生懸命なおしてくれた。時間は大分かかったが待っていた客は誰一人文句も言わず、責任者はしきりに詫びを言われたので気分もよかった、というのである。ちなみにキーンさんは折々新潟日報にも柏崎在住として紹介されている。雲の上の方だと思っていたがとても感じの良い方だ。

次は私自身の体験である。昨年所属する日本認知症予防学会において「人材育成」の一例として川瀬神経内科クリニック介護スタッフの育成「榎の森方式」について発表させていただいた。

会場にイギリスの園芸療法の先生がおられ、発表後いくつか質問を受けた。俄仕立ての通訳と聞き取りは何とかだが単語しか出てこない私の会話ではあったが「知りたい」「伝えたい」という熱意が勝って何とか伝わったようである。その園芸療法の先生がおっしゃるにはイギリスでは職業の壁が厚く大概「それは私の仕事ではない」と言われてしまうのだそうである。

「榎の森方式」では人生の大先輩である高齢者の介護現場において「あなた介護される人、私介護する人」という上下関係はふさわしくないという理念から「役割分担」を実践しているがそれは固定ではなくまた役職でもない。高齢者と介護者共々の生涯学習の場を創出する努力をしているのである。底辺には「おたがいさま」の日本古来の常識がある。

そして今年あらためて園芸療法の先生からお申し出があり、イギリスの学会において三条で実践しているこのローカルな事例を紹介したいという思いがけない展開となったのである。そんなこんなで「日本の常識も捨てたもんじゃないのでは？」とホットしているところである。

☆燕三条エフエム放送（ラヂオは〜と76,8MHz）ワイワイ女性ひろば

●本放送 毎週木曜日 11:00~11:30 ●再放送 毎週水曜日 19:30~20:00

6月のテーマ「市島教授のコミュニケーション講座」

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ①家庭内コミュニケーション | ②誤解、我慢、犠牲を乗り越えて |
| ③喧嘩力、仲良し力? | ④骨太のコミュニケーターに |
| ⑤自分と未来は変えられるのだ! | |

メンバー：市島清貴（新潟経営大学経営情報学部教授）
野崎ミチコ、田辺とも子

大人気のテーマ、6月の5週分を収録しました。「コミュニケーションは人類永遠のテーマ」というだけあって、市島教授から伺うお話には毎回新鮮な感動を覚えます。今回も深い言葉に出会いました。・論理的に考え、的確に表現する・自己客観視してみる・どう上手に喧嘩に負けるか・基本的にコミュニケーションは努力していかないと続かない・少々傷つけられてもへこたれない・など実践はなかなか難しいのですが、少しずつ理屈が分かってきた身としては、努力次第で骨太のコミュニケーターになれるかも？と希望が持てました。

収録中、この番組のファンだという女性をお見かけしました。特に市島教授のコーナーがお好きとのこと。今年度9月にも同テーマを予定しています。どうぞお聴きください。(田辺)

第21回三条女性会議総会のご報告

6月4日（土）午後4時より「まるい」にて総会を開催致しました。代表挨拶の後、来賓の市民部地域経営課長山村吉治様より、ご挨拶をいただきました。副代表村田扶美枝さん進行のもと議長に野水良子さんを選出し、いつもどおり柔らかな議事進行で、全ての議案が承認されたことをご報告致します。

尚今年度は、役員改選の年で、下記の通り決定しました。今後2年間気持ちも新たに頑張りたいと思いますので引き続き、会員の皆様のご協力をお願い致します。

- | | |
|-----------|------------------|
| ●代表 野崎ミチコ | ●副代表 村田扶美枝 住谷幸子 |
| ●会計 安室久恵 | ●会計監査 山家まり子 阿部正剛 |
| ●運営委員 宇治勇 | 川瀬弓子 小出和子 西方久子 |
| 野水良子 | 原道子 丸山静江 米田美智子 |

引き続き行った記念講演会は、この4月に三条市役所を退職された捧裕一朗さんから「市役所勤務40年、うふふっの裏話と人生の楽しみ」というテーマでお話をいただきました。

三条女性会議との関わりから、市役所勤務で楽しかった裏話や三条市の概要、組織・機構、年令別人口調べ、歴代市長へと話しは進みました。そして、「靴を履く時は右からと決めて意識することが、体を大切にすること」、「感謝の気持ち“ありがたい”は、存在しがたい。珍しい。めったにないことなので大切にしていること」、「行うことによって学ぶ、続けていくことが大事なこと」等、たくさん心に残るお話を聴きました。そんな捧さんにも、2度の退職の危機(?)があったとか。詳しくはお話しになりませんが、趣味も多彩でいろいろな経験を積んだ総合力があったからこそ、数々の問題を乗り越えてこられたのだなと思いました。

○総会出欠届〈何でも通信欄〉より

- ・会の運営をご苦労様です。鮮度一番を楽しみにしております。
- ・総会の盛況をお祈りします。
- ・ものづくり学校に移転して1年が過ぎました。いかがですか？“鮮度一番”は、いつも楽しみに拝読しています。
- ・昨年のおとちんさんのお話(内容は忘れてしまいましたが)(笑)楽しく拝聴しました。今年もウラ話を楽しみに参加させていただきます。地元の女性会議も参加者をつのっています。が、「三条女性会議」に心ひかれていた私です…。
- ・満80才になってしまいました。最近では認知症の心配をしています。皆さんと会ってみたい。
- ・“鮮度一番”楽しく拝読させて頂いております。これからも宜しくお願い致します。
- ・都合が悪く欠席します。申し訳ありません！捧氏の講演が聞けず残念です！！
- ・いつもありがとうございます。元気一杯の三条女性会議が大好きであります。引き続き、楽しんで下さい。
- ・すみません。当日、越後文学の研修で欠席させていただきます。

■総会代表あいさつ

三条女性会議代表 野崎ミチコ

こんにちは！

本日は、お忙しいところ三条女性会議総会にお集まりくださりまして誠にありがとうございます。また、三条市から市民部地域経営課課長山村吉治様のご臨席を頂きましたことに深く感謝申し上げます。第21回目の総会を開催するにあたり、初代代表の佐藤リヤウさんから「総会の盛況をお祈りします」とのメッセージをいただいています。

さて、三条女性会議は、3月までは、市民部市民窓口課の対応でしたが、この4月から市民部地域経営課に移りました。その詳細につきましては、後ほど山村課長さんからお話しただけだと思いますが、きっと、1市民団体である三条女性会議が、元気に活動すること、そのことが即まちづくりであるからなのではと勝手に推測しています。

まちづくりと言えば、少子化がもたらす問題が多々語られていますが、では、なぜ少子化なのか？

私たちが女性学を学び始めたころ、埼玉県にあるヌエック(国立女性教育会館)で聴いた、社会学者鹿嶋敬(かしまたかし)さんの話を思い出します。

「木を切って、切りっぱなしにしているのは、木は、いつか無くなってしまふ。手間をかけて植樹をしなければ未来はない。目先の利益にばかりとられて、木を植えてこなかった日本の社会が、少子化を招いている。」と少子化と男女共同参画は、密接な関係にあると説かれていました。

今週の月曜、5月30日の日本経済新聞に大見出しで「超少子化根底に性別分業」と日韓意識調査の結果が報告されました。その記事によれば、少子化の最大の要因は、「雇用不安、経済不安」にあるが、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」という根深い性別分業意識が、出生率1.5を下回る「超少子化国」に関与しているとしています。

さらに記事では、「日韓は少子化に加えて女性活躍も先進国の中でともに遅れている。世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数2015でみると、145カ国中、日本は101位、韓国は115位。特に経済分野で遅れが目立ち、女性管理職比率は11.3%、韓国11.2%と横並びで低迷し、米国43.7%や英国35.3%、フランス32.7%といった先進諸国に遠く及ばない。」そして「女性が出産とキャリアをどうすれば両立できるのか。日韓に共通する課題だ。」と結んでいます。

ここ三条市においても、進学校といわれる三条高校の男女比率で、女性が半数以上を占めているにも関わらず、男女の働き方は変わっていません。三条市が、持続可能なまち、魅力のあるまちであり続けるためにも企業、家庭、社会全体で変わっていかねばならないのは明らかです。

本日総会後の記念講演には、講師に捧裕一朗さんをお迎えしました。「市役所勤務40年、うふふっの裏話と人生の楽しみ」のテーマでお話いただきます。趣味が多彩で芸達者、とても定年を迎えたとは思えない若々しい捧さんの「人生の歩みかた」をお聴きできるのではないかと楽しみにしています。

最後になりますが、昨年度、わいわい女性ひろばを担当した田辺とも子さん、コミュニケーション講座の市島清貴先生、三条市男女共同参画審議会委員の丸山静江さん、20年間会報の構成を続けてくださっている原道子さん、同じく20年間会計引き受けてくださっている安室久恵さん、そしていろいろな形で会の活動にご協力いただいた全ての会員の皆様、本当にありがとうございました。今年度も、皆様と一緒に、明るく楽しい活動を続けていきたいと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。



■総会来賓あいさつ

三条市 市民部 地域経営課 課長 山村吉治様

ただいま御紹介をいただきました市役所地域経営課の山村です。どうぞよろしく
お願いいたします。

第 21 回三条女性会議総会の開催、本当におめでとうございます。また、お招き
をいただき、ありがとうございました。

御案内のとおり、4月1日から男女共同参画に関する業務が市民窓口課から地域
経営課に担当が変わりました。これと併せましてスマートウエルネス、ユニバーサ
ルデザイン、人権など市民生活全般にかかわる業務を新たに担当することになりま
した。皆様には気軽に地域経営課にお出でいただき、御相談いただきたいと思いま
す。

さて、御承知のとおり昨年、女性の職場における活躍を推進する、女性活躍推進
法が成立し、男女共同参加社会の形成に向けた動きが活発になってきたところでご
ざいます。

そんな中で、三条市においても昨年度、向こう8年間の第2次三条市男女共同参
画推進プランがスタートいたしました。

その中の一つの取組として昨年度は、三条女性会議の皆様から御協力をいただき
「女と男のライフスタイルセミナー」を開催させていただき、市民の皆様にも男や女
にとらわれない様々なライフスタイルを提案し、触れていただく機会になったと思
っております。

男女共同参加社会の実現は、一朝一夕でできるものではないと考えており、職場、
学校、家庭など様々な場で不断の取組を継続して実施していくことが何より重要で
ありますので、三条女性会議の皆様にはこれからも引き続き御協力をいただき、ま
た様々な御提案をいただきながら取組を進めてまいりたいと思いますので、どうぞ
よろしくお願いいたします。

最後になりますが、三条女性会議のますますの発展と、御出席の皆様の御健勝、
御多幸を祈念いたしましてあいさつとさせていただきます。本日は本当にありがと
うございました。

編集後記：

梅雨入りが待たれますが、どうぞ空梅雨で終わりませんよう
に・・・！総会が無事に終わり、新年度がスタートしました。総
会のご報告も含め盛りだくさんの鮮度一番206号です。どうぞ
隅から隅までお読みください。(原)

編集発行：三条女性会議・代表 野崎ミチコ

連絡先：三条市田島2丁目12-12 TEL 32-3667 FAX 32-3679

ホームページアドレス：<http://www.joseikaigi.net>

